

2022年度(評価対象期間: 2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 本学科では、人材育成その他の教育研究上の目的を、英語圏の人々と対話するのに十分な英語力と自己表現力を備え、また英語圏の文化・社会について幅広い知識を有し、異なる価値観にも共感できる人材の育成とし、「人材の養成・教育研究上の目的」を設定しており、学科の3つのポリシーにてらして適切なものである。				
(2) 本学科では、大学の建学の精神にのっとり「人材の養成・教育研究上の目的」を設定しており、それらに基づいた教育を行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
教育理念・各種方針(https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 本学科の設定する人材育成その他の教育研究上の目的については、「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に明示しており、大学HP上に公開している。				
(2) 本学科の人材の養成・教育研究上の目的等は「文学部履修要項」および大学ホームページに掲載し、具体的には本学HP学科のページ、「大学案内」などを通じて、教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
教育理念・各種方針 https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf				
2022年度文学部履修要項(p.31)				
大学HP学科のページ				
『大学案内』2023年度版(pp.53-58)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準1」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(4)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会等の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (4) 本学では各年度の春学期・秋学期に授業アンケートを実施し、その結果を各教員が検討し、対策をHPに公開している。文学部自己点検・自己評価委員会においてアンケート結果を点検・把握するなど、内部質保証体制を構築している。また、文学部では毎年度、教員間のピアレビューを実施し、互いに書面で問題点を指摘しあい、授業の改善に向けて努力している。さらに2018年度から学生の代表との懇談会を実施し、授業やその他学科の運営等に役立てている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
令和4年度 春学期 授業アンケート結果集計				
2022年度FD報告書				
文学部自己点検・自己評価委員会議事録				
学生・教員懇談会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準2」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)課程修了までに学生が修得することが求められる知識等の学習成果については、「英語圏の人々と自由にコミュニケーションができる英語運用能力」と「英語圏の人々の言語・文化的背景を深く理解できる能力」をディプロマ・ポリシーとして設定し、HP上及び履修要項に公開している。さらに、入学時および各学年のオリエンテーション時にこの2つのDPに関して具体的に詳しく説明することで、学生に対して当学科での学びの軸を再確認している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2022_01.pdf)				
2022年度文学部履修要項(p.33 ディプロマ・ポリシー)				
新入生オリエンテーションおよび新2・3年生に対する在学生オリエンテーション				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)カリキュラム・ポリシーを履修要項及び本学ホームページ上に公表し、本学科の教育内容、教育課程の体系、授業科目区分、授業形態等について示している。				
(2)当学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた英語力の修得と英米文化の知識の涵養を目指しており、その目標に対して、当学科のカリキュラムは、1年次から4年次まで段階的に知識を身につけられるよう工夫されており、3年次以降は自らが選んだ領域で知識を深められるよう、少人数のゼミや、より専門性の高い授業を配置している。以上のように、教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がみとめられる。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
カリキュラム・ポリシー(https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2022_01.pdf)				
2022年度文学部履修要項(pp.132-133 カリキュラム・ポリシー／授業科目の概要)				
2022年度文学部履修要項(pp.134-138 カリキュラムツリー／カリキュラム概要)				
英語英米文化学科カリキュラム (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/2022/criterion01.pdf)				
学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー(https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2022_01.pdf)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(6)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 当学科では、1年次-3年次に英語科目を、2年次-3年次に英語圏の文化および英語学の授業を配し、さらに3年次以降は少人数のゼミを配してさらなる知識の涵養に役立っている。このように、英語技能科目、および文化や言語に関する学びを基礎から応用科目へと段階的に学ぶことで、学年ごとに教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図ることを目的とした科目設定を実現している。				
(2) 1年次・2年次で培った基礎知識の発展として3年次の専門科目を配し、また3年次以降は少人数のゼミを配してさらなる知識の涵養に役立っている。また、英語科目を必修科目として英語力の涵養に努め、英語圏文化に関わる科目を選択科目として幅広い知識を習得できるよう配慮している。以上のように、当学科では、英語科目と英語圏文化の科目をバランスよく配置しており、体系性への配慮も十分になされている。				
(3) 当学科では、教育課程の編成・実施方針に合った英語圏の文化および英語科目を配しており、科目の性質に合わせてアクティビティを取り入れるなど、カリキュラムの随所に工夫がなされている。また、他分野の教員同士におけるシラバスチェックを導入することで、客観的な視点を取り入れ、包括的な整合性の取れた授業科目の内容及び方法を検討している。				
(4) 当学科では、1年次秋学期の「基礎演習Ⅰ」、および2年次春学期の「基礎演習Ⅱ」において、大学の学びのために必要な基礎知識を涵養するための初年次教育を行っている。教養教育についても、1年次-2年次を中心に配置されており、2年次以降の専門科目の学びへとスムーズにつながるよう十分に配慮がなされている。				
(6) 1年次から始まる演習科目により、複数のアカデミック・スキルを修得していくが、その集大成として3年次以降の「英米文化演習a・b」「総合演習a・b」(ゼミ)では、学生の社会的及び職業的自立を図るために特に重要な能力であると考えられる、批判的読解力、論理的思考力等、社会的に重要な力の育成に努めている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
カリキュラム・ポリシー(https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2022_01.pdf/)				
英語英米文化学科カリキュラム (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/2022/criterion01.pdf)				
「基礎演習ⅠA,B,C,D」シラバス				
2022年度文学部履修要項(pp. 132-147 カリキュラム・ポリシー、カリキュラムツリー、カリキュラムマップ等)				
学科内教員間によるシラバスチェック				
2022年度FD活動報告書				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置（授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等）を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体（会議名・誰が）」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 大学HPに公開された各科目のシラバスに、教員が学生に求める授業時間外の学習時間を明記している。また、各年次の履修登録単位数の上限を設け、履修要項において公表している。				
(2) シラバスには授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等を適切に明記している。また、授業内容とシラバスの整合性を保つために、授業評価アンケートに整合性に関する設問を設けて細やかにチェックを行っている。				
(3) とくに「Culture through EnglishI/II」、「Japanese Culture through English」、および「Oral CommunicationI/II」では、学生が主体的に参加できるアクティビティが外国人教員によって実施されている。とりわけ「Culture through EnglishI/II」と「Japanese Culture through English」の授業において発信型のプレゼンテーションを行っている点は特筆に価する。また、ICTを活用した国際協働学習「Online Communication in English」については、海外の学校と連携して授業を行うため、抽選科目にすることできめ細やかな指導に努めている。そして、3年次以降のゼミでは、学生主体のプレゼン中心の演習授業が実施されている。さらに「English Camp」、「Study Tour I, II, III」として学外でのアクティビティもカリキュラムの中に組みこむなど、随所に工夫がなされている。				
(4) 「基礎演習」および英語科目、3年次以降のゼミについては、クラス分けや履修者の人数制限を設けており、およそ30名以下と比較的少人数できめ細やかな指導ができる体制がとられている。また、今年度から1-2年生の履修については多様性を持たせた科目を持つ新カリキュラムとなり、その時間割を作成する段階で、履修者数に制限を設けずともある程度の受講生の分散が望める科目配置を考慮したことで、昨年度よりも細やかな指導が可能となった。また、在学生オリエンテーションや「基礎演習」、3年次以降において履修説明を実施し、それぞれの学生の適性や希望に合わせた履修方法を適切に指導している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
各授業のシラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbsshjr.do)				
2022年度文学部履修要項(p. 38-46 文学部共通事項履修登録 pp.128-130 英語英米文化学科履修登録)				
2022年度時間割				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(5)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	
		(6)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するために どのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(7)	適切に学位授与を行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など 第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)大学の定める評価基準にのっとり評価を行っている。				
(2)成績評価の客観性・厳格性を担保するための措置については、シラバスで成績評価方法を明示し、さらに、シラバスチェックを通して、客観性を保つようにしている。				
(3)卒業要件を履修要項に明示し、学生に周知している。				
(5)				
(6)卒業論文の口頭試問では、主査・副査の2名の教員が共通の学科の評価基準に従って論文の審査を行っている。最終的な学位審査及び修了認定については学科会議にて、修得単位数と成績の一覧を確認したうえで学部および学科で卒業判定を実施し、最終的には代表教授会で審議・決定しており、客観性及び厳格性を保っている。				
(7)所定の期間在籍し、学部学科の人材の養成・教育研究上の目的に沿って設定した教養科目と専門科目を履修して、卒業要件単位である 128 単位を修得することが求められる。これらの取得単位の確認を行い、学科会議、文学部教授会、そして代表教授会においてその承認を経て学位授与を行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2022年度文学部履修要項(pp. 19-22 成績)				
2022年度文学部履修要項(p.23 進級・卒業)				
2022年度文学部履修要項(pp.25-27 単位認定)				
シラバスチェック報告書				
愛知学院大学学位記授与に関する規程				
卒業論文評価基準表(学科内資料)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	B
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 当学科では、ディプロマポリシーに示した学習成果を測定するためのアセスメント・プランを設定している。				
(2) 学習成果の測定を目的とした学生調査については、大学の教務課が実施し、その結果はHP上で公開されている。また、卒業論文の評価のためのルーブリックを2020年度から導入し、これまで以上に公正な評価を目指している。さらに、2020年度からTOEICをアセスメントテストとして設定し、学生の学修成果の向上にむけたアセスメントを行っている。また、筆記テストやレポートだけの評価だけでなく、特に協働的な学びを行う科目については、総合的な学習成果を測るための適切なポートフォリオ評価方法について導入することを検討している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー（2022年度文学部履修要項 pp. 132-135）				
学修状況実態把握に関するアンケート https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/gakusyu2021.pdf				
卒業論文評価基準表(学科内資料)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 当学科では、英語科目については、TOEICテストの結果をもとに教育課程の改善・向上に向けた取り組みを行っており、英語以外の科目については、学生による授業アンケートの結果を教育内容の改善につなげている。また、2019年度からは、文学部自己点検・自己評価委員会において、学習成果の測定結果に基づき、教育課程及びその内容・方法が適切であるか、点検・評価している。				
(2) 英語科目については、TOEICのスコアの動向をもとに教育方針の改善につなげ、また、その他の専門科目については、学生による授業アンケートの結果をもとに教育内容の改善を行っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
TOEIC平均スコアの変遷表				
令和4年度 春学期・秋学期 授業アンケート結果集計				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにし、たうで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
4-④	当学科では、二種類の英語研修を実施している。国内で合宿する「English Camp」と春休みにアメリカ、イギリス、マレーシア・シンガポールで行う「Study Tour I, II, III」である。2022年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「English Camp」はオンラインに変更して実施、「Study Tour」はアメリカ研修が予定されていたが、渡米に不安を感じる学生および保護者が多かったため中止、代替案としてオンライン研修を用意したが、最少催行人数に満たず、こちらも実施に至らなかった。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
2022年度English Camp案内チラシ	
2022年度アメリカ研修募集チラシ	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準4」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間: 2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーをふまえたアドミッション・ポリシーを適切に設定している。また、アドミッション・ポリシーを大学ホームページ及び入学試験要項に掲載し、公表している。 (2) 入学前の学力水準および能力について求める学生像についての内容をふまえたアドミッション・ポリシーを以下のように設定し、意欲のある学生の入学を期待している。 ① 世界共通語である英語の運用能力(実用英語検定準2級以上が望ましい)を備え、さらに高めることに意欲的な学生。 ② 英語、国語、社会などの基礎的な学力があり、英語圏諸国の文化事情を積極的に学ぶことに意欲的な学生。 また、最新の社会情勢に関心を持ち、その理解に努める人。 ③ 将来、本学科で身につけた専門的知識や能力を仕事や生活などのさまざまな機会に活かし、社会に貢献することに意欲的な学生。 また、入学時に英語のプレイスメントテストを行い、過去の成績と比較して入学者の英語力を評価している。また、読書感想文を提出させて文章力や表現力を評価し、クリティカル・シンキング能力の育成に力を注いでいる。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
アドミッションポリシー (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2021_01.pdf)				
入学試験要項				
入学者への案内				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

英語英米文化学科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(3)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(4)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) アドミッション・ポリシーに基づいた学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定し、大学のHP上に公開している。				
(3) 愛知学院大学入学試験委員会規程に基づき、代表教授会の下に入学試験委員会を置き、入学試験委員会において入学者選抜を実施する体制が適切に整備されている。				
(4) (3)で述べた適切な体制のもと、学科入試委員を中心に、大学が定めた手続きにそって公正な入学者選抜を実施している。				
(5) 入学希望者に対して、大学が定めた手続きにそって入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な選抜を行っている。また、配慮が必要な受験生から申し出があった際には個別に対応し、別室受験、医療機器の試験室への持ち込みなど、可能な限りの対応を行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
大学入試サイト(http://navi.agu.ac.jp/examination/)				
入試委員会規程(組織内資料)				
入試委員会議事録(組織内資料)				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

英語英米文化学科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程、専門職学位課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	B
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 本年度は入学定員110名に対して入学者は101名(入学定員充足率約92%)と適切とは言えない入学者数比率となった。編入学者は毎年若干名を定員としており、編入学者数比率はおおむね適切である。入学者数／在籍学生数が入学定員／収容定員に充足するよう、入試委員を中心に入学試験結果や入学者数を検討している。現在の在籍者数は428名(収容定員充足率96.2%)であり、未充足の状態が続かないよう、継続して注意する必要がある。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
入学者数・収容定員及び在籍者数(https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/teiin2022.pdf)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 入試委員会において、学生の受け入れの適切性について点検・評価を行っている。また、学科の構成教員は、学科の入試委員からの入試委員会における検討内容を学科会議を通して把握し、入学試験状況の確認を逐一行っている。また、様々な委員会(自己点検・自己評価委員会／入試委員会など)の情報に基づき、学科として学生の受け入れの適切性の点検および評価を行っている。				
(2) (1)の点検／評価の結果に基づき、適切性向上に向けた検討がなされている。				
〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
入試委員会資料				
学科会議議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
5-③	入学定員充足率約92%ということで、改善の余地は多分にある。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
5-③	今年度の入学定員充足率は約92%となり、昨年度の85%よりは少々改善はしたものの、未だ適切な充足率ではない。改善策として、今年度は高校生に当学科の特徴や学びについて幅広く知ってもらうために、オープンキャンパスにて新たな試み(英語キャンプの様子や海外研修の様子をプロジェクターで投影し、在学生在が高校生に説明)を行ったり、学科インスタ、ウェブサイトを通じて学科での学生の様子や学科の活動を積極的に発信している。また、高校からの模擬授業や分野説明の依頼についても学科として全教員が積極的に受けることとし、当学科の周知に努めている。さらに、広報を通じて大学HPのトピックスに学科での活動や活躍している学生を紹介している。今後はさらに入試方法(形態)の検討なども行い、適切な充足率に届くよう努力する。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
大学HP トピックス(https://www.agu.ac.jp/)
英語英米文化学科インスタ
出張模擬授業、分野説明授業等 依頼資料
2022度オープンキャンパス資料

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
B

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(2)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (2) 学科の教員組織の編制に関する方針を適切に明示している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
教員組織の編制方針				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 各教員の担当コマ数からみても、専任教員でカバーできる科目数からみてもおおむね適切であるといえる。				
(2) 学科の専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施している。				

基準6. 教員・教員組織

組織名

英語英米文化学科

(3) 本学科の教員の年齢構成をみると、61歳以上の教員2名、51～60歳の教員4名、41～50歳の教員3名、40歳以下の教員1名となっており、若干高めの年齢構成になっているため、今後、定年退職等で欠員が出た場合には、30代の教員を採用するなど、年齢構成を改善していきたい。次に教員の男女比をみると、男性6名、女性4名と3:2の比率になっており、半々とまではいかないものの以前の状況にくらべて大きく改善している。本学科の専門科目は「アメリカ文化」「イギリス文化」「英語圏文化」「英語研究」の4つの領域からなるが、担当教員はそれぞれ、2名・2名・2名・4名と概ね適切であると言える。また、本学科の各教員の担当科目数は概ね週7科目～8科目であり、各教員の担当負担に対する配慮は十分になされている。なお、学科の教員組織の編制に関する方針を策定し、今後の教員組織の改善を目指している。

(4) 本学科の教養教育は教養部が担当するが、本学科としても日ごろから教養部と密に連携をとりながら効果的な教養教育を進めている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

大学案内(英語英米文化学科)

文学部講義概要

教員組織・教員数 (<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/kyosyokuinsuu2022.pdf>) 2022年5月1日時点

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 文学部では独自の教員採用・昇任規程である「愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程」を整備しており、本学科でもそれを採用・昇任の基準として用いている。				
(2) 「愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程」に定められた手続きにしたがって教員の募集・採用・昇任等を行っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 基準2-③に述べた文学部全体で実施されるFD活動に加え、例年、学科独自に地域貢献推進のFDを実施している。また、春学期(7月)と秋学期(12月)に、各教員は授業アンケートを原則すべての講義科目において実施しており、それらの結果に基づいて自己評価および改善策を講じている。秋学期には文学部による教員相互の授業参観を行い、参観後の感想／意見をお互いに報告し、客観的な評価をもとに課題改善に取り組んでいる。				
(2) 研究活動については、毎年度、各教員がその年度内に公開された研究業績を文学部に報告し、それを当該年度の『愛知学院大学文学部紀要』に掲載して互いにチェックし、研究推進に役立てている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2022年度 春学期 秋学期 授業アンケート結果集計				
『愛知学院大学文学部紀要』第51号(p. 206-208)				
全学FD活動報告書				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 文学部では人事審査委員会が教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っている。				
(2) 文学部では人事審査委員会が点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既の実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準6」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1)3年次ゼミでは、マレーシアのトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学の学生との国際交流授業をオンラインで実施したゼミや、中京大学・名城大学とともに「外交政策シミュレーション」を実施したゼミがある。オンライン(Zoom)上で、日本に暮らすロヒンギャ難民の子ども達の学習補佐をしていただくボランティアを行う活動の支援を行ったり、無印良品で開催される「つながる市」に参加し、フィリピンの子供たちが作成したステッカーを販売し現地の医療費として寄付をするゼミ活動もあった。また、「Online Communication in English」の授業では、国境や文化、年齢などを超えた多様な国際協働交流活動の一貫として、台湾およびモロッコの学校とのオンラインでの交流学习を実施した。これらの活動を通じて、本学科の学生は外国の学生に向けて日本文化を紹介しお互いの価値観を学んだり、同じ中部地区の他大学の学生と協力して一つのテーマを考えるという貴重な経験をした。また、国際協働学習および社会連携／貢献の一環として、学生はボランティア活動等を通して国際社会に貢献する意義を学んでいる。海外研修については、本年度はアメリカ研修が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止となった。代替案として、オンライン研修を用意したが、最少催行人数に満たなかったため、実施に至らなかった。 (2)(1)で述べた国内外における学習サポートや企業と連携しながらの募金活動等のボランティア活動に加え、当学科では、2018年度より「地域連携講座」を開催し、地域の住民に対して海外の文化についての研究成果を発信する場を設けるなど、社会貢献につながる教育研究活動にも取り組んでいる。本年度は、地域連携プロジェクトとして「イギリスの現在“Britain Now”」を開催した。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
名古屋市三大学連携合同外交政策シミュレーション(大学HP ニュース&イベント 2022.8.23)				
日本に暮らすロヒンギャ難民の子ども達の学習補佐(難民支援事業)のボランティア募集ポスター				
マレーシアのトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学の学生との国際交流授業活動記録				
Online Communication in English 活動記録				
2022年度アメリカ研修募集チラシ				
2022年度地域連携プロジェクトとして「イギリスの現在“Britain Now”」ポスター(大学HP ニュース&イベント 2022.12.23)				
「第32回つながる市」出店(無印良品開催)(大学HP ニュース&イベント 2023.2.20)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 9②(1)で述べた海外研修については、参加者からのアンケート等を実施している。ただし、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止となった。また、社会連携・社会貢献の適切性については、学科内での話し合いをはじめ、文学部としての適切な活動であるか等について、学科および学部で諮り確認および評価を行っている。				
(2) 海外研修については、参加者からのアンケート結果を今後の改善に役立てている。ただし、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止となった。また、その他の社会連携・社会貢献に関する活動についても、学科および学部の評価を基盤に、継続的に改善を図っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
海外研修参加者アンケート				
学科会議資料				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準9」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A